

第 20 回

教育システム改善のためのアンケート調査報告書

令和 8 年 3 月

有明工業高等専門学校
自己点検・評価委員会

目次

1. まえがき	1
2. アンケート結果およびその分析	2
2.1 令和6年度 5年生卒業時アンケート	2
2.2 令和7年度 新入生アンケート	8
2.3 令和7年度 専攻科入学生アンケート	13
2.4 令和7年度 教職員アンケート	16
3. あとがき	20

別様 アンケート内容と集計結果

- 別様1 5年生卒業時アンケート（令和7年1月実施）
- 別様2 新入生アンケート（令和7年3月実施）
- 別様3 専攻科入学生アンケート（令和7年3月実施）
- 別様4 教職員アンケート（令和7年3月実施）

1. まえがき

本校では、教育理念に基づいて設定された学習・教育到達目標を達成できるように教育プログラムを設計・作成し、日々の教育活動を展開しています。この教育プログラムに沿って教育を実践している本校の教育システム(教育体制)は、常時、点検・評価を行い、その結果を検討・分析し、継続的に改善を施し、向上させて行く必要があります。

自己点検・評価委員会(以下、本委員会)では、本校の教育システムの点検、分析そして改善・向上の一環として、6種類のアンケート(一部隔年)を実施しています。準学士課程卒業・専攻科課程修了直前の本科5年生・専攻科2年生、新入生(準学士課程、専攻科課程)、4年次編入生、OB・OG(本校卒業生)、企業および大学・大学院(本校卒業生の就職先・進学先)へのアンケートの6種類です。アンケート結果の集計、分析、改善点に関しては「教育システム改善のためのアンケート調査報告書」(以下、調査報告書)として報告しています。過去19回あり、過去の調査報告書の内容に関しては本校ホームページに公開していますので、詳細はそちらをご覧ください。

本調査報告書では、令和6年度準学士課程卒業生、令和7年度入学生(準学士課程、専攻科課程)のアンケート結果の集計、分析、改善点を報告します。例年行っております準学士課程4年次編入学生に対するアンケートは、令和7年度は編入学生が0であったため実施しておりません。令和6年度専攻科課程修了生のアンケートは令和7年1月に実施いたしましたが、分析段階でデータの破損がわかりました。データ復旧に努めてまいりましたが、復旧ができず、「本調査報告書」で報告ができない状況となりました。アンケートに協力していただいた令和6年度専攻科修了生は、その貴重なアンケートデータをデータ破損で失いましたことに深くお詫び申し上げます。また、調査報告書の作成が遅れましたこと、重ねてお詫び申し上げます。今回の調査報告書が、本校の教育システムの点検、分析そして改善・向上のため、関係各部署におきまして、活用いただけることを期待しています。

表1 第20回のアンケート実施・分析状況一覧

分析回	調査年度	実施時期	アンケート対象	報告年月	備考
第20回	令和6年度	令和7年1月	R6年度本科卒業生	R8(2026)年 3月	自己点検・ 評価委員会
		令和7年3月	R7年度新入生		
		令和7年3月	R7年度4年次編入生		
		令和7年3月	R7年度専攻科入学生		
		令和7年3月	教職員(R6年度実施)		

2. アンケート結果およびその分析

2.1 令和6年度の5年生卒業時アンケート

平成28年4月に改組が行われ5学科制から、創造工学科1学科6コース制となった。令和5年度の卒業生が創造工学科の4期生となり、本アンケートも1期生が卒業した令和2年度よりアンケートの内容を変更している。本アンケートは1月に電子メールで学生にアンケートの依頼を行い、担任の協力を得ながらGoogle Formsを利用して実施している。過去3年間のアンケートの実施状況を表2-1-1に示す。表2-1-1の通り、令和5年度の回答率は122%であった。これは、回答数が学生数を超えているクラスがあり、回答を複数回入力した学生がいるためである。アンケートでは、匿名で実施していることから、回答回数を制限できない状況となっている。今後は、クラスごとに時間を設けて一斉に入力させるなど、回答方法の検討が必要である。

表2-1-1 過去3年間の5年生卒業時アンケートの実施状況（参考）

	実施時期	対象者数（名）	回答者数（名）	回答率（%）
令和3（2021）年度	令和4年1月	203	195	93
令和4（2022）年度	令和5年2月	203	185	91
令和5（2023）年度	令和6年1月	210	256	122

※ 以下のコメントではコース名をエネルギー（E）、応用化学（C）、環境生命（L）、メカニクス（M）、情報システム（I）、建築（A）と記号を用いて略記する。

教育システムに関する分析として、令和5年度と令和4年度、令和3年度とを比較等することとした。以下の表において、各年度で全コースの平均値から10%以上低い場合は数値を網掛けしその右横に◎、10%以上高い場合は数値を網掛けしその右横に◎を付し、令和5年度のパーセンテージが令和4年度から10ポイント以上上昇した場合は数値右横に↑、10%以上下降した場合は数値右横に↓を付した。なお、CおよびLコースはその他のコースに比べ学生定員数が半分であり、一人のアンケートの有無でパーセンテージが他のコースに比べ変動が大きいことに留意する必要がある。

A：回答者自身に関する設問

【設問1）所属コース】

令和4年度において、5年生は4月時点で232名が在籍しており、203名が卒業した。一方、令和5年度において、教務係による統計では、平成31年4月入学時の学生数は216名、令和3年4月に3年次に留学生2名（E1名、M1名）、令和4年4月に4年次編入学生12名（E5名、M2名、I4名、A1名）が加わっている。最終的に、令和5年度の5年次学生の基本的全学生数（累計の入学数）は232名であり、その内の91%（209名）の学生が卒業していることになる。令和4年度の88%とほぼ同じ水準であった。

【設問2）卒業後の進路】

アンケート回答者の70%（180名）が就職で、令和4年度の65%より5%高かった。進学は29%（54名）であり、令和4年度の31%より2%低かった。そのうち大学3年次編入学に17%（43名）、専攻科課程に12%（31名）の学生が進学しており、令和3年度の16%、15%と比較して、やや大学3年次編入学が多くなっていった。各コース間の差はほとんど無かった。

B：教育全般の総括の評価に関する設問

【設問3～12）一般教育、専門教育、教育設備・学習環境、ICT環境・活用、図書館資料とその活用、期待していた実力の修得、教育研究の成果に関する満足度について】

表2-1-2に有明高専における教育全般の満足度に関するアンケートの結果を示す。回答は「満足している」、「おおむね満足している」、「やや不満である」、「不満である」の4つの選択式で、表中のパーセンテージは「満足している」と「おおむね満足している」の合計である。

「一般教育」の項目において、令和4年度では全コース90%以上で各コースでのばらつきも少なかった。令和5年度も同様に全コース90%以上で各コースでのばらつきも少なかった。「専門教育」の項目において、令和4年度はLコースのみ専門教育の満足度が極端に低かった。令和5年度は、CコースとLコースは、他のコースと比較すると低かったが、極端に低いことはなかった。

「教育設備・学習環境」については全コースの平均値で96%であり、満足度が高かった。

「ICT環境・活用」については全コースの平均値で93%であり、満足度が高かった。なお、令和5年度から、「ICT環境はどうか」「ICTの活用はどうか」と内容を2つに分けてアンケートを実施しており、表2-1-2の値はこの2つの合計である。別々にとったアンケート結果は表2-1-3に示す。2つのアンケートにおいて、全てのコースで85%を上回っていた。今後も、アンケートの動向を注視し、より細かな学生への対応をお願いしたい。

「図書館資料・活用」の項目については全コースの平均値で96%であり、満足度が高かった。なお、令和5年度から、「図書、学術雑誌、電子ジャーナルその他の教育上必要な資料はどうか」「図書館の活用はどうか」と内容を2つに分けてアンケートを実施しており、表2-1-2の値はこの2つの合計である。別々にとったアンケート結果は表2-1-3に示す。2つのアンケートにおいて、全てのコースで90%を上回っていた。今後も、アンケートの動向を注視し、より細かな学生への対応をお願いしたい。

「期待した実力修得」の項目では、全コースの平均値で98%であり、満足度が高かった。また、令和4年度のIコースの満足度は全コースの平均値よりも10%低かったが、令和5年度は大幅に改善された。「教育研究成果」については全コースの平均値で95%であり、満足度が高かった。

表 2-1-2 教育における満足度調査のアンケート結果 (%)

	一般教育			専門教育			教育設備・学習環境			ICT環境・活用		
	R5	R4	R3	R5	R4	R3	R5	R4	R3	R5	R4	R3
E	100	94	93	100	97	98	100	94	98	98↑	88↓	98
C	90↓	100	95	85⊖↓	100↑	90	90↓	100⊕	95	90	82↓	95
L	90↓	100	100	85⊖↑	65⊖↓	89	95↑	85↓	96	93	89	89
M	95	97	95	95	97	100	98	94	92	89	89	87
I	100	97	100	98	91	97	98↑	88↓	100	97↑	79↓	95
A	92	91	90	97	91	90	90	83	90	90	81↓	94
平均	96	96	96	96	91	95	96	90	95	93	84	93

	図書館資料・活用			期待した実力修得			教育研究成果		
	R5	R4	R3	R5	R4	R3	R5	R4	R3
E	100	97	88	100↑	88	90	94↑	88	93
C	90	94	100	90	88↓	100	90	94	95
L	90↓	100	96	95	90	89	95	85	78⊖
M	98	97↑	82⊖	100	97	90	98	89	92
I	97	91	100	100↑	79⊖↓	95	95↑	88	95
A	93	89	97	98	89	90	97	87	87
平均	96	94	93	98↑	89	92	95↑	88	90

表 2-1-3 教育における満足度調査のアンケート結果 (%)

	ICT環境	ICTの活用	教育上必要な資料	図書館の活用
	R5	R5	R5	R5
E	100	98	98	100
C	90	90	90	90
L	95	95	90	90
M	98	85	93	98
I	98	97	97	97
A	90	89	90	95
平均	96	93	94	96

C : 学習・教育到達目標について

【(設問 13~21)】

表 2-1-3, 2-1-4, 2-1-5 に有明高専における学習・教育到達目標が身に付いたか、達成度に関するアンケートの結果を示す。選択肢は「身に付いたと思う」、「おおむね身に付いたと思う」、「少し身に付いたと思う」、「余り身に付かなかったと思う」の4つであり、表中のパーセンテージは「身に付いたと思う」と「おおむね身に付いたと思う」の合計である。

全体的に見て学習・教育到達目標は「おおむね身に付いた」と考えられるが、いくつかの項目で達成度の低い箇所があり、今後の状況を注視する必要がある。A「豊かな教養と国際性」については、A-1とA-2で例年全コース平均値で90%を越えている。A-3「コミュニケーション能力」の項目については、令和4年度まで

全コースの平均値 70 %以下と低かったが、令和 5 年度は 93 %と大幅に上昇している。改善取り組みの成果かか、今年度の特徴的なことか、今後の動向を注視する必要がある項目である。また、前者の場合、学校に取り組みの情報を共有するなどして、今後の学校運営に活かしてほしい。B「専門知識と学際性」では B-2「工

表 2-1-3 学習・教育到達目標（A：豊かな教養と国際性）が身に付いたかのアンケート結果（%）

	A-1			A-2			A-3		
	R5	R4	R3	R5	R4	R3	R5	R4	R3
E	100	97	90	100	94	93	98↑	72	73
C	95	88↓	100	95↑	82⇓	95	90↑	76⇓	76
L	95↑	80⇓	78⇓	95	95	89	80⇓	55↓	70
M	98	89	95	100	97	90	95↑	60↓	74
I	100	97	92	100	100	100	95↑	53⇓	92⇓
A	97	91	94	100↑	85	94	90↑	64↓	77
平均	98	91	92	99	92	93	93↑	63↓	77

表 2-1-4 学習・教育到達目標（B：専門知識と学際性）が身に付いたかのアンケート結果（%）

	B-1			B-2			B-3			B-4		
	R5	R4	R3	R5	R4	R3	R5	R4	R3	R5	R4	R3
E	100↑	88	93	100	91	85	100	91	88	100↑	88	88
C	95	94	100	95↑	82↓	95	95	88	95	95↑	82↓	100
L	90↑	80	85	85⇓	80	89	90↑	80	82	90↑	70⇓	85
M	100	94	95	100	91	95	100	91	95	98	94	95
I	100↑	88	95	98↑	85	89	100↑	82↓	92	100↑	82↓	92
A	100↑	87	90	100↑	89	90	97↑	87	90	98↑	85	94
平均	99↑	89	93	98↑	88	90	98↑	87	90	98↑	85	92

表 2-1-5 学習・教育到達目標（C：創造性とデザイン能力）が身に付いたかのアンケート結果（%）

	C-1			C-2		
	R5	R4	R3	R5	R4	R3
E	100	94	85	100↑	88	85
C	95↑	82↓	95	95↑	82↓	100
L	90↑	80	85	90↑	65⇓	89
M	100	91	98	100↑	89	95
I	100↑	76⇓	95	98↑	85	81
A	100↑	87	94	98↑	87	94
平均	99↑	86	92	98↑	84	90

学の専門知識」で L コースのみ全コース平均値よりも低い値になっていた。C「創造性とデザイン能力」については、全コース平均値で 90 %を越えていた。C：学習・教育到達目標については、令和 4 年度までと比較して全体的に達成度が改善されていた。

D：その他

【設問 22】教育理念に関する設問

本校では、「求める人材像」である「教育理念」を定めている。令和 5 年度より、「教育理念」に関する認知度のアンケートを実施した。設問は、本校の教育理念「幅広い工学基礎と豊かな教養を基盤に、創造性、多様性、学際性、国際性に富む実践的な高度技術者の育成を目指す」を「知っていた」、「おおむね知っていた」、「少し知っていた」、「知らなかった」の項目のアンケート結果を表 2-1-6 に示す。「知っていた」、「おおむね知っていた」のポジティブな回答は全コース合計で 83 %、ネガティブな回答が 16 %であった。教育理念に関しての調査は初めてであり、初期値を示しているが、ネガティブな回答が 16 %であったことは、教育理念に関して、改善の余地のある意味深い値であった。E コースは、「知っていた」、「おおむね知っていた」の回答が 93 %と周知度が高かった。C コースと L コースは、平均の 83 %より 10 %以上低く、今後の動向を注視する必要がある。

表 2-1-6 教育理念に関するアンケート結果 (%)

	知っていた	おおむね知っていた	少し知っていた	知らなかった
E	29	21	3	1
C	5	7	3	4
L	6	8	5	1
M	19	14	6	2
I	27	24	7	1
A	25	28	4	5
平均	43	40	11	5

【(設問 23, 24) シラバスに関する設問】

シラバスの利用に関するアンケート結果を表 2-1-7 に示す。「シラバス利用」のアンケートの選択肢は「利用した」、「それなりに利用した」、「あまり利用しなかった」、「利用しなかった」の 4 つであり、表中のパーセンテージは「利用した」と「それなりに利用した」の合計である。また、「シラバスの利用状況をもとにした授業改善」のアンケートの選択肢は「見られた」、「それなりに見られた」、「あまり見られなかった」、「見られなかった」の 4 つであり、表中のパーセンテージは「見られた」と「それなりに見られた」の合計である。

表 2-1-7 シラバスに関するアンケート結果 (%)

	シラバス利用			シラバスと授業改善		
	R5	R4	R3	R5	R4	R3
E	93↑	78	75	96↑	81	90
C	85↑	71	76	80⊖	88↑	76⊖
L	85↓	95⊕↑	82	80⊖↑	65⊖	70⊖
M	90	89⊖	85	90	89	87
I	97↑	76↓	87	98↑	85↓	95
A	90↑	72	81	89	85	93
平均	91↑	79	81	91	83	87

シラバスの利用に関して、各項目、各コースにおいて多少のばらつきはあるものの、本校ではシラバスの授業計画に基づき、授業が実施され、また改善も行われていることが確認できる。各コースにおけるシラバスの活用や授業改善は、令和 4 年度までと比較して、多少の増減はあるものの、おおむね改善されている。

【(設問 25, 26) TOEIC 関連の設問】

TOEIC 関連のアンケート結果を表 2-1-7 に示す。アンケートの選択肢は「役に立った」、「おおむね役に立った」、「あまり役に立たなかった」、「役に立たなかった」の 4 つであり、表中のパーセンテージは、「役に立った」と「おおむね役に立った」の合計である。「TOEIC 関連の授業の役立ち」の設問に関して、全コース平均値で 80 % であり令和 4 年度に比べて 20 % 増加している。令和 3 年度に比べては 8 % の増加であることから、今後の動向を注視する必要がある。各コースの令和 3 年度から令和 5 年度までの推移では、年度によって大きく変動しており、コースではなくクラスによって状況が異なる結果となった。また、「TOEIC 一斉試験が役に立ったか」の設問に関して、全コース平均値で 84 % であった。コース間でばらつきはあるもののおおむね改善されており、要因としては専攻科課程および大学編入の入試や就職試験における TOEIC スコアの採用が増えていることが考えられる。

表 2-1-7 TOEIC に関するアンケート結果 (%)

	授業の役立ち			一斉試験について		
	R5	R4	R3	R5	R4	R3
E	91⊕↑	47⊖↓	73	87↑	72	80
C	60⊖↓	71⊖	71	75↓	94⊖	90
L	70⊖↑	60	59⊖	75	75	73
M	66⊖	63	72	78	80	87
I	85↑	53↓	92⊖	92↑	71↓	89
A	84↑	68↑	58⊖	84	77	68⊖
平均	80↑	60↓	72	84	77	81

【(設問 27-31) レポートのフィードバック, 教員の授業時間外の学習指導, 授業改善アンケートとその授業改善への反映, 学修単位の時間外学修の評価, 進路支援について】

「レポートのフィードバック」, 「教員の授業時間外の学習指導」, 「授業改善アンケートと授業改善」, 「学修単位の時間外学修の評価」, 「進路支援」に関するアンケート結果を表 2-1-8 に示す。各表のパーセンテージは 4 択のうち上位 2 つ, 例えば「レポートのフィードバック」では「適正」と「おおむね適正」の合計である。

「レポートのフィードバック」に関して, 全コース平均値に比べて C コースは 16 ポイント, L コースは 21 ポイント低かったが, 令和 4 年度と比較すると改善されていた。「授業時間外の学習指導」に関して, 全コース平均値で令和 4 年度から大きな変化がなく, 各コースのばらつきも見られなかった。「授業改善アンケートとその授業改善への反映」に関して, 全コース平均値に比べて C コースと L コースは低い状況であったが, 令和 4 年度と比較すると大幅に改善されていた。

「学修単位の授業時間外学修の評価」と「進路支援」に関しては, 全コース平均値は 95 %, 91%であり, 各コースのばらつきはあるが, 極端に低い状況はなかった。

表 2-1-8 レポートのフィードバック, 授業時間外学習指導, 授業改善アンケートと授業改善, 進路支援に関するアンケート結果 (%)

	レポートのフィードバック			授業時間外学習指導			授業改善アンケート		
	R5	R4	R3	R5	R4	R3	R5	R4	R3
E	93	84↓	95	98	97	95	96↑	81	88
C	75 [⊖]	71 [⊖] ↓	95	95	100	100	75 [⊖] ↑	65 [⊖] ↓	76 [⊖]
L	70 [⊖] ↑	60 [⊖] ↓	74 [⊖]	95↑	85 [⊖]	89	80 [⊖] ↑	60 [⊖] ↓	78
M	95	89	92	100	97	100	95	94 [⊖]	92
I	95	91	89	98	97	100	95	91 [⊖]	95
A	95	94	94	97	91	97	87	74↓	84
平均	91	85	90	98	95	97	91↑	80	87

	学修単位の評価			進路支援		
	R5	R4	R3	R5	R4	R3
E	96↑	84↓	95	100↑	88	95
C	85 [⊖]	88	90	95	88↓	100
L	85 [⊖]	85	85	90	85↓	100
M	98	100↑	90	95	97	92
I	98	94	100	100	91	97
A	95	91	94	97	91	87
平均	95	91	93	97	91	95

【(設問 32, 33) 成績評価・単位認定基準, 卒業要件の認知度について】

「成績評価・単位認定の基準」と「卒業要件」に関する認知度のアンケート結果を表 2-1-9 に示す。アンケートの選択肢は「知っていた」, 「おおむね知っていた」, 「少し知っていた」, 「知らなかった」の 4 つであり, 表中のパーセンテージは「知っていた」と「おおむね知っていた」の合計である。

「成績評価・単位認定の基準」の認知度に関して, 全コース平均値 97%であり, 各コースのばらつきもない状況であった。

「卒業要件の認知度」に関して, 全コース平均値で令和 4 年度から大きな変化がなく, 各コースのばらつきも少ない状況であった。

表 2-1-9 成績評価・単位認定に関する基準, 卒業要件の認知度に関するアンケート結果 (%)

	成績評価・単位認定基準			卒業要件		
	R5	R4	R3	R5	R4	R3
E	98	97	93	96	91	93
C	95	88	90	90	94	86
L	90↓	100↑	89	95	90	85
M	100	94	90	95	91	92
I	97	97	95	95	100↑	89
A	97	96	87	94	96	90
平均	97	94	91	96	94	90

【(設問 34, 35) 数理・データサイエンス・A I 教育プログラムの認知度・達成度について】

本校が令和 4 年 8 月に文部科学省等が定めた制度「数理・データサイエンス・A I 教育プログラム (リテラシーレベル)」に認定されたことに伴い、令和 4 年度のアンケートからその認知度と達成度に関する設問を追加した。アンケート結果を表 2-1-10 に示す。アンケートの選択肢はいずれも 4 つであり、表中のパーセンテージは認知度では「知っていた」と「おおむね知っていた」の合計、達成度では「よく理解できた」と「おおむね理解できた」の合計である。

「数理・データサイエンス・A I 教育プログラムの認知度」に関しては、全コース平均値 66%と低い水準ではあるが、令和 4 年度と比較して 25%増加しており、認知度は改善されていた。

「数理・データサイエンス・A I 教育プログラムの該当科目に対する達成度」に関して、全コース平均値で 88%であり、令和 4 年度より 11%増加していた。

各コースのばらつきはあるが、認知度・達成度は全体的に増加しており、プログラムを継続することで状況は改善が見込まれる。

表 2-1-10 数理・データサイエンス・A I 教育プログラムの認知度・達成度に関するアンケート結果 (%)

	プログラム認知度		プログラム達成度	
	R5	R4	R5	R4
E	76 [⊕] ↑	44	83	84
C	30 [⊖]	29 [⊖]	85	82
L	35 [⊖]	30 [⊖]	75 [⊖]	70
M	63↑	51 [⊕]	90↑	77
I	78 [⊕] ↑	32	97↑	76
A	71↑	45	89↑	72
平均	66↑	41	88↑	77

【(設問 32) 意見・要望】

自由意見を回答していただいた卒業生には感謝申し上げます。ここで個別に取り上げることはしないが、是非ともアンケート結果を参照いただき、建設的な意見・要望については、関係部署は今後の改善に活かしてもらいたい。

2.2 令和7年度の新入生アンケート

過去3年間に実施した新入生に関するアンケートの実施時期および回答者数等は表2-2-1の通りである。アンケート内容は高専機構の入学動機アンケートを基本としている。今回の分析は、令和7年度における新入生を対象とし、以前にも同様の質問項目がある場合はその値を参照・比較する形で行った。本アンケートは2月の合格者発表後に合格者宛に郵送し、実施している。回答率は97.1%であった。実施方法については問題無いと思われる。なお、アドミッション・ポリシーに関するアンケートは教務主事室で実施しているため、アドミッション・ポリシーに関する結果・分析に関してはそちらを参照されたい。

表2-2-1 新入生保護者および新入生*アンケートの実施状況

	実施時期	対象者数(名)	回答者数(名)	回答率(%)
R5(2023)年度	R5年3月	新入生205	205	100
R6(2024)年度	R6年3月	新入生207	206	99.5
R7(2025)年度	R7年4月	新入生207	201	97.1

* 前年度からの留年者等を除いた学生(新規入学生)を「新入生」と定義して、本アンケートの対象としている。

教育システムに関する分析として、令和7年度と令和6年度、令和5年度とを比較等することとした。以下の表において、令和7年度のパーセンテージが令和6年度から10ポイント以上上昇した場合は数値右横に↑、10%以上下降した場合は数値右横に↓を付した。

【(設問1) 有明高専を最初に知った時期】

表2-2-2に有明高専を最初に知った時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としており、パーセンテージの高い上位3つの項目の数字を網掛けにしている。R5年度およびR6年度では中学3年生で初めて有明高専を知った割合が中学2年より上回っていたが、R7年度は中学2年の割合の方が中学3年より大きく上回った。有明高専の認知の早期化がはかられた傾向があると考えられるが、今後も動向を注視する必要がある。また、このデータをもとにして、より一層の広報、入試広報活動展開を期待したい。

表2-2-2 有明高専を最初に知った時期(%)

時期	R7	R6	R5
小学校入学前	2	2	2
小学1~3年	8	3	7
小学4~6年	26	23	24
中学1年	23	31	29
中学2年	24	20	18
中学3年	17	21	21
その他			

【(設問1) 有明高専を最初に知った時期】

表2-2-2に有明高専を最初に知った時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としており、パーセンテージの高い項目上位3つの項目の数字を網掛けにしている。年度により多少の差はあるが、年度によらず小学校高学年~中学校2年生で20%を越え、認知の75%を越えていることがわかる。

表2-2-2 有明高専を最初に知った時期(%)

時期	R4	R3	R2
小学校入学前	1	2	4
小学1~3年	5	6	7
小学4~6年	29	29	28
中学1年	25	27	21
中学2年	24	23	25
中学3年	15	13	15
その他	0	0	0

【(設問2) 受験検討時期】

表2-2-3に受験検討時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としており、パーセンテージの高い上位2つの項目の数字を網掛けにしている。年度により多少の差はあるが、受験検討時期は年度によ

らず中学2年，3年合わせて70%を越えている。今後も動向を注視する必要がある。また，このデータをもとにして，より一層の広報，入試広報活動展開を期待したい。

表 2-2-3 有明高専への受験検討時期 (%)

時期	R7	R6	R5
小学1～3年	1	0	1
小学4～6年	8	9	7
中学1年	16	15	19
中学2年	29	27	29
中学3年	46	49	46

【(設問3) 受験決定時期】

表 2-2-4 に受験決定時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としており，パーセンテージの高い上位2つの項目の数字を網掛けにしている。表 2-3-4 から，受験決定時期としては中学3年の第2学期が最も多いことがわかる。また，60%を越える入学生が中学3年の第1～2学期に本校への受験を決定していることがわかる。このことは，過去の調査報告書でも同様の傾向であり，過去3年間以上同じ結果であることかを踏まえ，広報，入試広報戦略への活用を期待したい。

表 2-2-4 有明高専受験を決定した時期 (%)

時期	R7	R6	R5
小学校	3	2	5
中1	8	8	8
中2前半	6	7	7
中2後半	15	16	9
中3第1学期	26	23	30
中3第2学期	39	40	39
中3第3学期	3	3	2
その他			

【(設問4) 関心を持ったきっかけ】

表 2-2-5 に関心を持ったきっかけに関するアンケート結果を示す。5つまでを回答可とし，結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し，パーセンテージの高い上位3つの項目の数字を網掛けにしている。年度によってパーセンテージの差はあるが「オープンキャンパス・見学会」，「学校行事(高専祭・体育祭等)」，「家族・親族」は，例年同様上位を占めている。特に「オープンキャンパス・見学会」および「学校行事(高専祭・体育祭等)」は増加傾向にあるが，「パンフレット」は減少傾向がみとれ，今後の動向を注視する必要がある。また，このデータをもとにして，より一層の広報，入試広報活動展開を期待したい。

表 2-2-5 関心を持った経緯 (%)

項目	R7	R6	R5
入学説明会（本校主催）	13	16	14
体験入学	21	20	24
オープンキャンパス・見学会	64	56	48
学校行事（高専祭・体育祭等）	32	23	17
高専体育大会	3	2	4
ロボコン・デザコン・プロコン・プレコン	18	14	18
GCON, 高専女子フォーラム	1	0	1
公開講座	1	1	3
出前授業・訪問実験	3	1	2
地域イベントなどでの科学体験教室	5	5	2
パンフレット	22	29	33
ホームページ	28	32	29
中学校における説明会	12	8	10
家族・親族	60	55	60
中学校の先生	10	13	10
友人・先輩	16	15	18
塾の先生	10	9	9
新聞・雑誌・高専に関する漫画などの情報紙(誌)	1	3	4
TV・ラジオ	2	1	2
動画サイト, SNS など	7	8	8
進学情報サイトなど	10	6	7
国公立高専合同説明会	2	0	0
その他	3	2	3

【(設問 5) 本校への志望を決めた理由】

表2-2-6に本校に志望を決めた理由に関するアンケート結果を示す。5つまでを回答可とし、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い上位3つの項目の数字を網掛けにしている。「自分の学びたいことを学べる」、「就職の実績がよい」、「特色のある授業、カリキュラムがある」が上位を占めているが、R5年度およびR6年度と比較すると、上位3項目はいずれも10%以上減少しており、今後の動向を注視する必要がある。

表 2-2-6 本校への志望を決めた理由 (%)

項目	R7	R6	R5
自分の学びたいことを学べる	56 ↓	81	79
特色のある授業, カリキュラムがある	20 ↓	31	30
就職の実績がよい	30 ↓	48	39
大学への進学実績がよい	8	13	12
専攻科課程に進学し, 学士の学位を取得することができる	7	9	7
とりたい資格がとれる	11	17	12
この人に学びたいと思う教員がいる	0	1	1
寮がある	7	5	6
立地、通学環境がよい	3	2	3
施設や設備が充実している	19	23	22
校風が自分に合っている	23	18	24
両親、先生、友人から勧められた	12	17	17
学費があまりかからない(学費が安い, 独自の奨学金がある)	5	7	4
入りたい部活動があるなど, 課外活動に興味がある(ロボコン等含む)	7	6	5
海外留学、国際交流の機会がある	15	18	13
偏差値がちょうどよかった	6	3	8
なんとなく	0	0	1
その他	8	0	1

【(設問 6) 志願に影響を受けた方やアドバイスを受けた方】

表 2-2-7 に本校に志望を決めた理由に関するアンケート結果を示す。1 つのみ回答可としており、パーセンテージの高い上位 2 つの項目の数字を網掛けにしている。R5 年度および R6 年度と同様、「保護者」が抜け出て高く、その割合は年々増加傾向である。また、このデータをもとにして、より一層の広報、入試広報活動展開を期待したい。

表 2-2-7 本校への志望を決めた理由 (%)

項目	R7	R6	R5
保護者	46	43	40
兄弟／姉妹	12	12	12
高専生			0
親戚	4	4	7
中学校等在籍する学校の先生からのすすめ	8	11	8
先輩、友人	11	8	13
塾の先生	10	15	12
特にアドバイスは受けていない	9	6	7
その他	0	0	0

【(設問 7) 入学前に感じていた魅力】

表 2-2-8 に入学前に感じていた魅力に関するアンケートの結果を示す。5 つまでを回答可とし、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。年度によってパーセンテージに差があるが、「早期専門教育」が抜け出て高い。「特色ある授業・カリキュラム」、「5 年一貫教育」、「就職の実績」はほぼ等しくなった。また、R6 年度まで上位にあった「学びたいことが学べる」は減少傾向にあり、今後の動向を注視する必要がある。また、このデータをもとにして、より一層の広報、入試広報活動展開を期待したい。

表 2-2-8 入学前に感じていた魅力 (%)

項目	R7	R6	R5
特色のある授業・カリキュラム	50	41	40
5 年一貫教育	50	42	40
早期専門教育	68	72	60
就職の実績	49	55	45
大学進学実績	14	17	18
専攻科	10	9	8
JABEE 認定	0	1	2
資格取得	13	18	16
教員	0	1	1
寮	7	4	6
立地・通学環境	3	2	3
施設・設備	23	25	21
校風	24	18	24
学費	6	5	5
ロボコン・デザコン・プロコン・プレコン	12	12	12
GCON, 高専女子フォーラム	0	0	0
課外活動	8	5	5
学校行事 (高専祭・体育祭等)	19	12	13
将来の夢の実現	40	45	41
学びたいことを学べる	42	46	47
海外留学・国際交流	19	21	20
特になし			0
その他	1	0	0

【(設問 8) 入学前に知りたかったこと】

表2-2-9に入学前に知りたかったことに関するアンケートの結果を示す。5つまでを回答可とし、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い上位3つの項目の数字を網掛けにしている。「学則」および「授業」はこれまでと比べて大きく減少しているが、「留年・退学」は例年同様のパーセンテージであり、相対的に知りたかった項目としての意見が大きくなったと考えられる。上位を占めている項目はより発信していく必要があると考えられる。また、「満足」が1%となっていることから、入学前に知りたかったことの掘り起こしを含め、このデータをもとにして、より一層の広報、入試広報活動展開を期待したい。

表 2-2-9 入学前に知りたかったこと (%)

項目	R7	R6	R5
高校との違い	15	15	15
進路 (進学)	10	16	12
進路 (就職)	11	14	13
学費	6	10	9
学則	33 ↓	53	47
授業	34 ↓	51	46
インターンシップ	13	12	12
国際交流	18	17	17
寮	17	25	21
課外活動	24	29	28
留年・退学	33	32	30
知りたかったことは知ることができた (満足)	1	10	13
その他	0	0	0

【(設問 9) 『高専』という選択』を読んだことがあるか】

表 2-2-10 に高専機構が作成した冊子『高専』という選択』を読んだことがあるかの有無に関するアンケートの結果を示す。過去 3 年、読んだことのある新入生の割合が低調である。過去の調査報告書でも同様の傾向であり、過去 3 年間以上同じ結果であることかを踏まえ、何らかのアクションを強く望む。

表 2-2-10 『高専』という選択』を読んだことがあるか (%)

	R7	R6	R5
読んだ (読んだことがある)	18	26	22
読んでいない (読んだことはない、知らない)	82	74	78

【(設問 10) 「キラキラ高専ガールになろう！」を読んだことがあるか】

表 2-2-11 に高専機構が作成した冊子「キラキラ高専ガールになろう！」を読んだことがあるかの有無に関するアンケートの結果を示す。過去の調査報告書でも同様の傾向であり、過去 3 年間以上同じ結果であることかを踏まえ、何らかのアクションを強く望む。

表 2-2-11 「キラキラ高専ガールになろう！」を読んだことがあるか (%)

	R7	R6	R5
読んだ (読んだことがある)	5	3	9
読んでいない (読んだことはない、知らない)	95	97	91

最後に、入学者アンケート内容は広報、入試広報活動に直結する内容が多いことから、質問内容、分析、報告を含めて広報、入試広報の関連部署で取りまとめることが望ましい時期になってきたと考えられる。アンケートの実施、分析、報告を広報、入試広報の関連部署で実施することを検討いただきたい。

2.3 令和7年度の専攻科課程入学生アンケート

過去3年間に実施した専攻科課程入学生に関するアンケートの実施時期および回答者数等は表2-3-1の通りである。令和4年度から設けたアンケートで、アンケート内容は高専機構の入学動機アンケートを基本としている。本アンケートは4月に案内メールで依頼し、4月14日までにGoogle Formを用いて実施している。回答率は83%であった。実施方法については問題無いと思われる。

表2-3-1 専攻科課程入学生アンケートの実施状況

	実施時期	対象者数(名)	回答者数(名)	回答率(%)
R5(2023)年度	R5年3月	29	28	97
R6(2024)年度	R6年3月	26	21	81
R7(2025)年度	R7年4月	23	19	83

教育システムに関する分析として、令和7年度と令和6年度、令和5年度とを比較等することとした。以下の表において、令和7年度のパーセンテージが令和6年度から10ポイント以上上昇した場合は数値右横に↑、10%以上下降した場合は数値右横に↓を付した。

【(設問1) 有明高専専攻科を最初に知った時期】

表2-3-2に有明高専専攻科を最初に知った時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としている。パーセンテージの最も高い項目の数字を網掛けにしている。中学生の時期に一番多く認知されていることがわかる。アンケート開始時から一番パーセンテージの高かった高専1~3年時は年を追って相対的に下がる傾向がみてとることができ、今後の状況を注視し、専攻科の広報活動に活かしてほしい。

表2-3-2 有明高専専攻科を最初に知った時期(%)

時期	R7	R6	R5
小学校入学前	0	0	4
小学生の時期	0	10	11
中学生の時期	58	52	36
高専1~3年	37	29	39
高専4~5年	5	10	11

【(設問2) 受験検討時期】

表2-3-3に受験検討時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としている。パーセンテージの最も高い項目の数字を網掛けにしている。3年間、約6、7割の学生が高専4~5年生の頃に受験を検討したことがわかる。また、受験検討時期として、高専1~2年前期では0%に激減し、高専4~5年が74%と急増している。高専1~2年前期はコース配属前であることから、専攻科へ進学するかは、コースに配属されてから考えるように変化したことも考えられ、今後の状況を注視し、専攻科の広報活動に活かしてほしい。

表2-3-3 有明高専専攻科への受験検討時期(%)

時期	R7	R6	R5
高専1~2年前期	0↓	19	14
高専2年後期~3年	26	24	18
高専4~5年	74↑	57	64
その他	0	0	4

【(設問3) 受験決定時期】

表2-3-4に受験決定時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としている。パーセンテージの最も高い項目の数字を網掛けにしている。昨年度、専攻科受験の決定の早期化が表れていると記したが、今年度については、高専5年前期のパーセンテージも増えている。設問2と同様、専攻科へ進学するかは、コースに配属されてから考えるように変化したことも考えられ、今後の状況を注視し、専攻科の広報活動に活かしてほしい。

表 2-3-4 有明高専専攻科受験を決定した時期 (%)

時期	R7	R6	R5
高専 1～2 年前期	0	5	7
高専 2 年後期～3 年	5	5	4
高専 4 年前期	16 ↓	43	14
高専 4 年後期	42	38	50
高専 5 年前期	37 ↑	5	21
高専 5 年後期	0	5	0
その他	0	0	4

【(設問 4) 入学の動機 (本校の魅力)】

表 2-3-5 に入学の動機に関するアンケートの結果を示す。5 つまでを回答可としており、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い項目上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。今年度は「大学院への進学実績」、「学費があまりかからない」「専門教育の充実」の順で高いパーセンテージであった。年度により多少の変化はあるものの、パーセンテージの高い項目は 5 つ程度に絞られていた。なお、「特色のある授業・カリキュラムがある」、「大学院への進学実績がよい」、「学費があまりかからない」はパーセンテージが大きく増加しているものの、「学士の学位取得を取得できる」、「立地・通学環境がよい」はパーセンテージが大きく減少している。今後の状況を注視し、専攻科の広報活動に活かしてほしい。

表 2-3-5 入学の動機 (本校の魅力) (%)

項目	R7	R6	R5
特色のある授業・カリキュラムがある	26 ↑	14	11
知的欲求が満足できる	11	10	11
専門教育が充実している	42	48	21
就職の実績がよい	32	38	36
大学院への進学実績がよい	63 ↑	42	36
学士の学位取得を取得できる	37 ↓	62	39
とりたい資格を取得することができる	5	10	0
この人に学びたいという教員がいる	5	14	18
立地・通学環境がよい	5 ↓	33	14
施設・設備が充実している	0	5	0
学費があまりかからない	53 ↑	33	64
将来の夢を実現できると思った	11	5	21
自分の学びたいことが学べる	11	5	11
海外留学・国際交流の機会がある	16	19	14
家族・親戚のすすめがあった	0	10	14
教員からのすすめがあった	5	5	29
先輩・友人からのすすめがあった	11	5	7
特になし	0	0	0

【(設問 5) アドミッション・ポリシーについて】

表 2-3-6 に「アドミッション・ポリシーを知っているか」に関するアンケート結果を示す。昨年度は「知っている」のパーセンテージが 100%であったが、今年度は約 90%となっている。継続的に 100%を維持できるよう、今後の動向を注視する必要がある。

表 2-3-6 アドミッション・ポリシーを知っているか (%)

項目	R7	R6	R5
知っている	89 ↓	100	75
知らない	11	0	25

【(設問 6) アドミッション・ポリシーについて】

表 2-3-7 にアドミッション・ポリシーを知っている人のうちの自己評価に関するアンケート結果を示す。

5つまでを回答可としており、パーセンテージが60%以上の項目の数字を網掛けにしている。全体的には、アドミッション・ポリシーの自己評価のパーセンテージが高いものの「専門工学に関する知識と創造性に富み、実践力を身につけた人」、「自己啓発・向上能力に富み、技術を通じ社会の発展に寄与できる人」、「国際社会で活躍できる広い視野と教養を備えた人」の項目が60%を下回っているため、まだ改善の余地があり、今後の動向を注視したい。

表 2-3-7 アドミッション・ポリシーを満足してるかの自己評価 (%)

	R7	R6	R5
幅広い工学に関する基礎知識と主体性を身につけた人	84↑	71	76
専門工学に関する知識と創造性に富み、実践力を身につけた人	58↓	71	86
自己啓発・向上能力に富み、技術を通じ社会の発展に寄与できる人	53↓	85	57
多様な価値観を理解し、学際的な分野で活躍できる人	79	81	48
国際社会で活躍できる広い視野と教養を備えた人	53	57	48

2.4 教職員アンケート

教職員に対するアンケートは、令和4年度から隔年（定期的）に実施されるようになり、今回は2回目となる。本アンケートは3月に対象教職委員139名に案内メールを送り、4月11日まででgoogle formsを用いて実施している。アンケートの回答者数は56名で、回答率40.3%であった。令和4年度は63.6%であり、回答率が20%以上低くなった。他のアンケートと同様の方式であることから、実施方法としては問題ないと考えられるが、実施時期が年度末であったため、教職員の移動等で回答率が低くなった可能性があり、実施時期は改善する必要があると思われる。

教育システムに関する分析として、前回（令和4年度）との比較を行う形とした。以下の表において、今回のパーセンテージが前回（令和4年度）から10パーセント以上上昇した場合は数値右横に↑、下降した場合は数値右横に↓を付した。

【(設問1～10) 教育理念，養成すべき人物像，学習・教育到達目標，3つのポリシー，教育上の目的の周知に関する設問】

設問1～10のアンケート結果を表2-4-1に示す。令和4年実施のアンケート結果と比べると「ある程度知っている」の回答の↑表記が8項目であり、全質問項目で改善していることがわかる。「教育理念」，「養成すべき人物像」，「準学士課程の学習・教育到達目標」，「3つのポリシー（準学士，専攻科課程）」，「教育上の目的（創造工学科，各コース，専攻科課程）」は「知っている」，「ある程度知っている」が80%を超え，「教育上の目的（各系）」では73%，「学習・教育到達目標（専攻科課程）」では79%であった。全体的に，回答内容の良化傾向がみてとれるが，「よく知っている」の回答は減少傾向にあることから（「専攻科課程の教育上の目的」は10パーセント下げている），今後の動向を注視する必要がある。

表2-4-1 教育理念，養成すべき人物像，学習・教育到達目標，3つのポリシー，教育上の目的の周知に関する設問（%）

	よく知っている		ある程度知っている		あまり知らない		まったく知らない	
	R6	R4	R6	R4	R6	R4	R6	R4
1. 教育理念	38	37	59 ↑	49	4	12	0	1
2. 養成すべき人物像	32	36	63 ↑	48	5 ↓	15	0	1
3. 準学士過程の学習・教育到達目標	36	36	57 ↑	47	7	13	0	4
4. 準学士課程の3つのポリシー	32	36	64 ↑	43	4 ↓	17	0	4
5. 創造工学科の教育上の目的	34	32	55	47	9	17	2	4
6. 各系の教育上の目的	21	24	52	45	23	23	4	8
7. 各コースの教育上の目的	29	30	52 ↑	40	18	23	2	8
8. 専攻科課程の学習・教育到達目標	27	33	52 ↑	41	20	17	2	8
9. 専攻科課程の3つのポリシー	27	35	55 ↑	41	16	19	2	5
10. 専攻科課程の教育上の目的	23 ↓	33	57 ↑	41	18	19	2	1

【(設問11) あなたは本校の教育理念，養成すべき人材，学習・教育到達目標，3つのポリシー，教育上の目的に照らし合わせ，教育の実状をどう思われますか】

設問11の結果を表2-4-2に示す。「よく達成されている」は23%であり，令和4年度と同じパーセンテージであり，教職員による教育実情の達成度評価は低い状況であることがわかった。達成度が低い項目は，設問12で実施しており，これらの状況を参考に教育実情の改善対応が必要である。

表2-4-2 本校の教育理念，養成すべき人材，学習・教育到達目標，3つのポリシー，教育上の目的に照らし合わせ，教育の実状をどう思われますか（%）

項目	R6	R4
よく達成されている	23	23
達成されている	59	63
あまり達成されていない	11	9
達成されていない	2	0
(着任したばかりで) わからない	5	5

【(設問12) 設問11で「よく達成されている」と回答されなかった方は，何を改善すればよいと考えますか】

設問12の結果を表2-4-3に示す。パーセンテージの高い項目上位3つの項目の数字を網掛けにしている。

改善が必要な項目としてパーセントが高い順に、教員の構成や配置 53%、学科の構成や専攻の構成といった教育組織 35%、学習環境 33%であった。2 回目のアンケートであることから、今後の動向を注視する必要があるが、教員の構成や配置は令和 4 年度のアンケートでも最上位であり、パーセントも増加していることから、教員の構成や配置のどこにどのような問題があるかなどの調査を実施する等して、改善対応を必要とする項目であると考えられる。

表 2-4-3 設問 11 で「よく達成されている」と回答されなかった方の改善項目 (%)

項目	R6	R4
1.学科の構成や専攻の構成といった教育組織 (基準 2-1)	35	22
2.教員の構成や配置 (基準 2-2)	53	41
3.教員の教育研究活動の評価 (基準 2-3)	30	31
4.教員および教育支援者の能力向上を図る取組 (基準 2-4)	25	22
5.学習環境 (施設設備) (基準 3-1)	33	24
6.学習支援 (生活・経済面の支援, 課外活動) (基準 3-2)	23	29
7.財務に関すること (基準 4-1)	20	5
8.管理運営体制 (運営や危機管理など) (基準 4-2)	28	12
9.情報公開 (基準 4-3)	10	3
10.カリキュラム・ポリシー (基準 5 と基準 8)	15	3
11.アドミッション・ポリシー (基準 6 と基準 8)	3	2
12.ディプロマポリシー (基準 7 と基準 8)	3	5
13.その他	10	3

【設問 13】 ICT 環境のあなたの満足度を教えてください

設問 13 の結果を表 2-4-4 に示す。「非常に満足である」、「満足である」で 90%であり、満足度が高い状況に改善していることがわかった。2 回目のアンケートであることから、今後の動向を注視する必要があるが、回答内容の良化傾向がみてとれることから、この傾向を維持して欲しい。

表 2-4-4 ICT 環境のあなたの満足度を教えてください (%)

項目	R6	R4
非常に満足である	20	19
満足である	70 ↑	52
あまり満足ではない	5 ↓	28
まったく満足ではない	4	0
(着任したばかりで) 判断できない	2	1

【設問 14】 あなたは図書館を有効に活用していると思いますか

設問 14 の結果を表 2-4-5 に示す。「あまり活用していない」、「全く活用していない」が 82%であり、令和 4 年度のアンケート結果と比べて活用していないパーセンテージが 9%増加している。2 回目のアンケートであることから、今後の動向を注視する必要があるが、図書館利用のどこにどのような問題があるかなどの調査を実施する等して、改善対応を必要とする項目であると考えられる。

表 2-4-5 あなたは図書館を有効に活用していると思いますか (%)

項目	R6	R4
有効に活用している	18	25
あまり活用していない	61	53
全く活用していない	21	20
(着任したばかりで) 判断できない	0	1

【設問 15】 本校の収支に関する「方針・計画」を知っていますか

設問 15 の結果を表 2-4-6 に示す。「あまり知らない」、「全く知らない」、「わからない」という回答が 50%を超えており (68%), 収支の計画等の策定とその明示に改善が必要である。2 回目のアンケートであることから、今後の動向を注視する必要があるが、本校の収支の方針、計画に関してより一層の説明、開示が必要な状況であると考えられる。

表 2-4-6 本校の収支に関する「方針・計画」を知っていますか (%)

項目	R6	R4
よく知っている	2	7
ある程度知っている	30	21
あまり知らない	50	43
まったく知らない	16	25
(着任したばかりで) わからない	2	4

【(設問 16) 設問 15 で「まったく知らない」と回答されなかった方は、「方針・計画」をどう思われますか】

設問 16 の結果を表 2-4-7 に示す。本校の収支に関する「方針・計画」を知っている方々への質問で、「方針、計画は両方とも明示されており、内容も問題ない状況である」の回答は 46%であった。令和 4 年度 (55%) からは 9%悪くなっており、矢印はついていないが大きくパーセンテージを下げた状況である。2 回目のアンケートであることから、今後の動向を注視する必要があるが、本校の収支に関する「方針・計画」をより一層の発信することが必要である。

表 2-4-7 設問 15 で「まったく知らない」と回答されなかった方は「方針・計画」をどう思われますか (%)

項目	R6	R4
方針、計画は両方とも明示されており、内容も問題ない状況である	46	55
収支は明示もされて十分な状況であるが、計画は不十分な状況である	24	23
計画は明示もされて十分な状況であるが、収支は不十分な状況である	22	13
方針・計画は両方とも明示もされておらず、問題のある状況である	9	5

【(設問 17) 予算 (資源) 配分が本校の「方針・計画」と合致した内容になっていると思えますか】

設問 17 の結果を表 2-4-8 に示す。「わからない」という回答が 54%となっている。令和 4 年度のアンケートからは 10%の改善はあるものの、依然、半分以上の教職員が予算配分の全体 (方針と計画) が見えていない状況にあることから、改善が必要である。前回のアンケート報告書でも記載されていたが、該当部署が、運営会議からの発信・伝達に頼るだけではなく、ダイレクトに本校の収支に関する「方針・計画」を積極的に発信することも有効な手段と思われる。

表 2-4-8 予算 (資源) 配分が本校の「方針・計画」と合致した内容になっていると思えますか (%)

項目	R6	R4
合致している	36	32
合致していない	11	4
わからない	54↓	64

【(設問 18) 設問 17 で「合致している」と回答された方は予算 (資源) 配分内容に関してどう思われますか】

設問 18 の結果を表 2-4-9 に示す。「良い状況である」が 75%であり、改善の余地がある状況で、学校としての計画・方針、予算配分に関する丁寧な説明が必要であると考えられる。

表 2-4-9 設問 17 で「合致している」と回答された方は予算 (資源) 配分内容に関してどう思われますか

項目	R6	R4
良い状況である	75	71
あまり良い状況でない	25	29
回答なし	0	0

【(設問 19) 設問 18 で「合致していない」と回答した方は例があれば教えてください(自由記述)】

「合致していない」とする方から自由記述で意見を頂戴している。重要な意見でもあることから、運営会議で内容を確認し、建設的なもの、対応できるものは対応するようにお願いしたい。

【(設問 20) 教員と事務職員等との役割分担は適切と思えますか】

設問 20 の結果を表 2-4-10 に示す。「適切である」が 64%と低い値で、前回と変化がなかった。特に設問 21, 22 では具体的な案件が提示されていることから、運営会議で内容を確認し、建設的なもの、対応できるものは対応するようにお願いしたい。

表 2-4-10 教員と事務職員等との役割分担は適切と思われますか (%)

項目	R6	R4
適切である	64	64
適切でない	29	31
(着任したばかりで) わからない	7	5

【(設問 21) 設問 20 で「適切である」と回答された方はその役割配分のもと、必要な連携体制が確保され、効果的な活動が行われていると思いますか】

設問 21 の結果を表 2-4-11 に示す。設問 20 において「教員と事務職員の役割分担が適切である」と回答された方々への質問で、「効果的な活動が行われている」が 75%と前回より 12%上昇した。教員と事務職員の連携は、設置基準改正でも重要視されていることから、より高いレベルで連携の確保と効果的な活動に関する問題点の把握と改善が速やかに行われることが期待される。

表 2-4-11 設問 20 で「適切である」と回答された方はその役割配分のもと、必要な連携体制が確保され、効果的な活動が行われていると思いますか (%)

項目	R6	R4
必要な連携体制が確保され、効果的な活動が行われている	75 ↑	63
必要な連携体制が確保されているが、効果的な活動が行われていない	19	25
必要な連携体制が確保されておらず、効果的な活動が行われていない	6	4
空白セル (回答：わからない 4名)	0	8

【(設問 22) 設問 20 で「適切でない」と回答された方は改善すべきと思われる点を教えてください(記述回答)】

設問 20 で教員と事務職員等との役割分担は「適切でない」と回答した教職員の自由記述回答が得られた。貴重な意見であることから、運営会議で内容を確認し、建設的なもの、対応できるものは対応するようにお願いしたい。

【(設問 23) 教職員に関するアンケートの実施時期はどう思われますか】

設問 23 の結果を表 2-4-12 に示す。「年度末の時期」が今の時期と合わせると 88%であり、他の時期よりも望ましいことがわかる。本アンケートの最初に記したが、回答率は大きく下がったことから、年度末に実施する場合でも、アンケートの時期をより詳細に精査していく必要がある。

表 2-4-12 教職員に関するアンケートの実施時期はどう思われますか (%)

項目	R6	R4
後期開始前の時期が良い	13	23
今の時期が良い	59	45
年度末の時期が良い	29	32

【(設問 24) 教職員に関するアンケートの実施はどう思われますか】

設問 24 の結果を表 2-4-13 に示す。教職員アンケートの実施に関しては「非常に良いと思う」、「良いと思う」で 89%と高い値となったが、「非常に良いと思う」は大きくパーセンテージを下げていることから、アンケートの内容も変更するなど工夫をする努力が必要と考えられる。また、運営会議には、今後の学校運営・改善に繋がるよう、活用をお願いしたい。

表 2-4-13 教職員に関するアンケートの実施はどう思われますか (%)

項目	R6	R4
非常に良いと思う	14 ↓	31
良いと思う	75 ↑	60
あまり良くないと思う	5	9
良くないと思う	5	0

【(設問 25) 教育システムに関して何かご意見がありましたら、教えてください。(自由記述)】

本校の教育システムに関する教職員の意見が多数得られた。ここで内容を記述することは避けるが、貴重な意見であることから、運営会議で内容を確認し、建設的なもの、対応できるものは対応するようにお願いしたい。

3. あとがき

本校の教育システムならびに教育プログラムを継続的に改善・向上するために、本委員会が主体となってアンケートを実施し、集計・分析、報告活動を展開してきました。「本調査報告書」の「まえがき」にありますように対象者0により「令和7年度の準学士課程編入学生アンケート」、データの破損により「令和6年度の専攻科修了時アンケート」の分析ができておりません。アンケートに協力していただいた令和6年度の専攻科修了生にお詫び申し上げます。また、「本調査報告書」の完成が遅れましたこと、重ねてお詫び申し上げます。本調査報告書が、本校における教育プログラムのPDCAの一助として活用していただけますと幸いです。

1. 令和6年度の5年生卒業時アンケート

令和5年3月の卒業生は、本校が平成28年度に創造工学科に改組した第3期の卒業生になり、3年間での比較ができるようになった項目が出てきました。

「教育全般（教育内容・教育環境）」、「学習・教育到達目標の達成度」では、「おおむね満足している」という評価が全コースの平均で概ね85%以上でした。なお、年度による変動が大きい項目は「ICT環境・活用」です。今後を注視して去る必要があります。

「学習・教育到達目標」では、「おおむね身に付いた」という評価がほとんどの項目で3年間、全コース平均で85%以上でしたが、A-3の「コミュニケーション能力」のみが年度経過とともに下落し、20ポイント程度低い(63%)結果となりました。A-3の「コミュニケーション能力」については今後を注視して去る必要があります。

「その他」の項目では、「TOEICに関する授業の役立ち」を除き、全コース平均値で概ね80%以上でした。「TOEICに関する授業の役立ち」は非常に悪い状況ですので、今後の動向を注視すると同時に、学校で実施しているTOEIC関連の試験結果を活用、総括して、教務主事室主導で英語関連の教員と連携を図り今後の対応を改めて検討することが望まれる。令和4年度から本校が認定された「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に関するアンケートを実施したが、認識度が全コース平均で40%台であった。年度途中での認定であったが、認知度を上げる方策が必要と思われる。

また、コースによりばらつきも生じている項目もあることから、今後継続していくようであれば学校としての改善が必要となる項目の種となりますので、今後を注視していく必要があります。

2. 令和7年度の本科新生アンケート

令和7年4月の新生アンケートでは、例年から変わった項目はありませんでしたが、そのパーセンテージに大きく変化がありました。具体的には、本校への志望を決めた理由の「自分の学びたいことを学べる」「特色のある授業、カリキュラムがある」「就職の実績がよい」、入学前に知りたかったことの「授業」「学則」が大きくパーセンテージを下げています。これらの項目に今後の動向を注視し、対応をしていくことが必要になっていくと考えられます。本アンケート結果は教務と連携しており令和6年度入試に活かされることを強く望みます。調査報告書で何度も指摘しましたが、「『高専』という選択」「キラキラ高専ガールになろう！」はほとんど読まれておらず、対応をお願い致します。

3. 令和7年度の専攻科入学生アンケート

専攻科受験検討時期として、高専1～2年前期が減少し、高専4～5年が増加した。高専1～2年前期はコース配属前であることから、専攻科へ進学するかは、コースに配属されてから考えるように変化したことも考えられ、今後の動向を注視する必要がある。また、入学の動機(本校の魅力)は上位の項目は変わらなかったものの、「特色のある授業・カリキュラムがある」、「大学院への進学実績がよい」、「学費があまりかからない」はパーセンテージが大きく増加しているものの、「学士の学位取得を取得できる」、「立地・通学環境がよい」はパーセンテージが大きく減少していた。入学の動機のトレンドが変化してきていることも考えられ、今後の動向を注視する必要がある。

なお、アドミッション・ポリシーに関する項目では今後の動向を注視する必要があります。アドミッション・ポリシーの認知度に関しては大きくパーセンテージが減少しており、改善が必要な状況です。アドミッション・ポリシーの各項目の自己評価では「幅広い工学に関する基礎知識と主体性を身につけた人」が大きくパーセンテージが増加しましたが、「専門工学に関する知識と創造性に富み、実践力を身につけた人」、「自己啓発・向上能力に富み、技術を通じ社会の発展に寄与できる人」が大き

くパーセンテージが低下し、例年、50%台の「国際社会で活躍できる広い視野と教養を備えた人」と同程度となっています。今後の動向を注視する必要があることはもちろんですが、50%台の3項目の自己評価が増加するよう、担当部署で改善を行っていく必要があると考えられます。

4. 令和6年度の教職員アンケート

令和4年度に新たに設けたアンケートで、隔年での実施アンケートであることから、令和4年度、令和6年度との比較が基本となります。アンケートの回収が大きく低下した。アンケート実施時期が年度末であったことも1つの要因と考えられることから、実施時期は改善していくことが必要であると考えられる。2年間のデータで大きく変動した項目があったのは「教育理念、養成すべき人物像、学習・教育到達目標、3つのポリシー、教育上の目的の周知」、「ICT環境の満足度」、「教員と事務職員の必要な連携体制の確保」で好転、「予算（資源）配分の「方針・計画」の不明化であった。「予算（資源）配分の「方針・計画」は教職員に広く、周知していく努力を担当部署で行っていくことが望ましい状況と考えられます。

本調査報告書は、令和6年度の卒業生、令和7年度の入学生（本科1年生、専攻科1年生）、教職員に対するアンケート報告書です。これらのアンケートは、卒業生の満足度、次年度の入学者選抜といった有明高専の自己点検・評価の実施に不可欠な意見であり、運営会議に報告するとともに広く一般に公開するものです。本校の関連部署等が改善の意識をもって積極的に「本調査報告書」に目を通していただき、本校の教育システム・プログラムの継続的改善・向上の一助として活用していただくことを切に望みます。本調査報告書において、わかりにくい表現等ありましたら本委員会にお知らせください。また、活用できる質問項目を積極的にお教えいただきますようよろしくお願いいたします。

最後に、各種アンケート調査にご協力・ご尽力、ならびにご支援頂きました関係各位・各組織に深く感謝の意を表します。

自己点検・評価委員会

委員長 明石 剛二（創造工学科）

清水 暁生・小林 正幸・石川 洋平・窪田 真樹（創造工学科）・酒井 健（一般教育科）

事務担当 山口 智子（総務企画係）